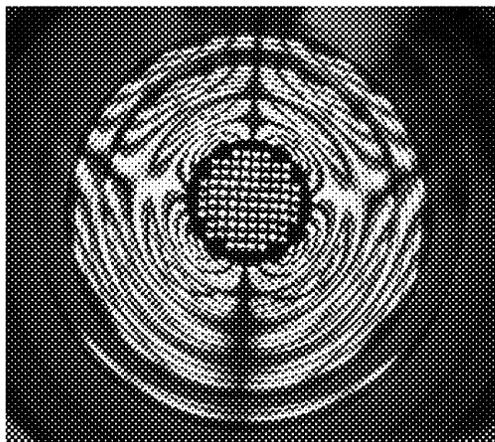


遠紫外LED光源開発

日本タングステン・理研 ウイルス不活化

【福岡】日本タングステンと理化学研究所（ナノは10億分の1）



放物面鏡で覆われた発光時のLEDパネル
(中央、日本タングステン提供)

の遠紫外発光ダイオード(LED)光源を共同開発した。1・2ミクロン×1・3ミクロンサイズのLEDチップは実装状態の連続動作で出力1・1ミリワット、パルス動作で同2・7ミリワットを実現した。複数光源で放物面鏡を備えたモジュールとともに、人体に無害でウイルスを不活化する装置として実用化する。

医療・衛生機器のコ

ア部品として展開を見込む。不活化効果や、人体への影響について

大学と研究し、2025年の製品化を目指す。

チップを80個並べたパネルでは連続動作880ミリワット、パルス動作210ミリワットの出力に達した。正孔(ホール)が流れるp型半導体側への分極ドレーピング層の導入でホール伝導特性を大幅に改善。透明コ

ンタクト層の導入で光の取出効率を向上した。同社は波長200ナノメートル領域の外光を遠紫外線と位置付け、深紫外線に比べて皮膚や眼への影響が小さいとみる。